

学園祭と
同時開催！
参加無料！！

群馬県民カレッジ連携講座-
群馬パース大学
第2回公開講座2026

がんについて 学ぼう

医療専門職からのメッセージ

がんに関する最新の知識や支援について、知ってみませんか？
どなたでもお気軽に、1つの講座からお申し込み・ご参加いただけます。

日時 2026.10.25 日 10:00～
(開場 9:30)

会場 群馬パース大学 1号館4階

いずれかでご参加いただけます



現地参加

実際に大学の講義室で！



LIVE参加

ご自宅等からお気軽に！※

※LIVE配信をご視聴いただくには、インターネットに接続可能な環境が必要となります。

全8講座 がんに関する様々な内容を、専門職の視点からお伝えします。講座詳細はこちら→



1A がん検査のいま
～『原因を見つける』から
『一番効く薬を選ぶ』へ～
10:00
11:00
質疑応答 11:10
講師：柳田 絵美衣
医療技術学部 検査技術学科 准教授



1B もうひとりで悩まないで！
～がん患者とその家族を
支えるピアサポート～
10:00
11:00
質疑応答 11:10
講師：萩原 英子
看護学部 看護学科 教授



2A がんの苦痛をマネジメントする
11:30
12:30
質疑応答 12:40
講師：堀越 政孝
看護学部 看護学科 准教授



2B 乳癌 — 検診・診断から治療まで —
～放射線医療が支える
早期発見と乳房温存治療～
11:30
12:30
質疑応答 12:40
講師：磯 昌宏
医療技術学部 放射線学科 講師



3A 終末期のリハビリテーション
13:30
14:30
質疑応答 14:40
講師：木村 朗
リハビリテーション学部 理学療法学科 教授



3B がん治療によるお口の変化と
トラブルを予防するセルフケアのすすめ
13:30
14:30
質疑応答 14:40
講師：伊藤 順子
看護実践教育センター 主任教員 (摂食嚥下障害看護認定看護師)



4A がんになっても、その人らしく
～言語聴覚士が支える
コミュニケーションと食べる力～
15:00
16:00
質疑応答 16:10
講師：鈴木 倫
リハビリテーション学部 言語聴覚学科 講師



4B がん医療における患者の
意思決定と同一性
15:00
16:00
質疑応答 16:10
講師：峯村 優一
教養部長 准教授



お申し込みは▶
当日の参加も
大歓迎！



アクセス

〒370-0006
群馬県高崎市間屋町1-7-1 (高崎間屋町駅より徒歩約10分)
※当日は学園祭も開催しているため、駐車場が大変混み合います。可能な方は公共交通機関をご利用ください。



お問い合わせ

群馬パース大学 地域連携センター
(植田・細矢・藤井)
TEL:027-365-3370

群馬パース大学

Connect つながる。つなげる。



2026年度 群馬パース大学 第2回公開講座 各講座の詳細（ぐんま県民カレッジ連携講座）

開催日：2026年10月25日(日)

講演1A 【検査技術学科】

講 座	がん検査のいま ～『原因を見つける』から『一番効く薬を選ぶ』へ～	演者のプロフィール
演 者	柳田 絵美衣(医療技術学部 検査技術学科 准教授)	 スマートフォン等から開く 場合は2次元コードをタップ！
目 的	がんの細胞や遺伝子を調べる意味を知って、疑問や不安を減らしながら、検査や治療を身近に感じてみませんか。	
概 要	「がんゲノムってよく聞けれど、実はよくわからない」、「遺伝子の検査って、なんだか少し不安…」 そんなふうに感じたことはありませんか？ 本講座では、がんの細胞や遺伝子を調べることで何がわかるのか、なぜ治療に役立つのかを、病理検査から最新の検査まで、やさしくわかりやすく説明します。	

講演2A 【看護学科】

講 座	がんの苦痛をマネジメントする	演者のプロフィール
演 者	堀越 政孝(看護学部 看護学科 准教授)	 スマートフォン等から開く 場合は2次元コードをタップ！
目 的	がんにより生じる様々な苦痛症状のマネジメントについて、看護師の視点から説明します。	
概 要	今や日本人の2人に1人以上が罹患する“がん”。がんの進行と共に様々な苦痛が生じることは、世間一般に知られています。そのため、「がんは怖い」「がんはつらいものだ」などネガティブな反応が多いのは当然のことです。しかし、医療の発展によって、がんの症状はコントロール、マネジメントすることが可能になってきています。がんの苦痛と向き合い、対応していくための方法について、多くのがん患者さんと関わってきた臨床経験も踏まえて解説します。	

講演3A 【理学療法学科】

講 座	終末期のリハビリテーション	演者のプロフィール  スマートフォン等から開く場合は2次元コードをタップ！
演 者	木村 朗(リハビリテーション学部 理学療法学科 教授)	
目 的	終末期に理学療法士や作業療法士ができることを、提供者側と家族としての両方の実体験の実際から知り、共に考える時間とする。	
概 要	終末期のリハビリテーションについて、理学療法士の視点から実体験を交えてお話しします。月単位・週単位・日単位・時間単位と移ろう終末期では、痛みや不安の軽減と、喜びや安心の確保は別々の軸として組み合わせて支えます。本領を発揮する医療マッサージや姿勢・動作の支援技術に加え、本人と周囲の人や環境の関係を見守り、見えにくいけれど確かに在るものに目を向け、心を共に育む時間にします。	

講演4A 【言語聴覚学科】

講 座	がんになっても、その人らしく ～言語聴覚士が支えるコミュニケーションと食べる力～		演者のプロフィール
演 者	鈴木 倫(リハビリテーション学部 言語聴覚学科 講師)		 スマートフォン等から開く 場合は2次元コードをタップ！
目 的	がんやその治療により生じる「話す」「食べる」の変化を知り、言語聴覚士の支援や生活を支える関わりについて学びましょう。		
概 要	「人生最後に食べたいものは？」「大切な人に伝えたい言葉は？」そんな問いを通して、「食べること」「話すこと」の大切さを一緒に考える講座です。頭頸部がんだけでなく、さまざまながんの進行や治療に伴って生じる摂食嚥下やコミュニケーションに関する問題、終末期における支援についてご紹介します。皆さんにも考えていただく時間を交えながら、「食べること」「話すこと」を支えるための関わりについて理解を深めます。		

講演1B 【看護学科】

講 座	もうひとりで悩まないで！ ～がん患者とその家族を支えるピアサポート～	演者のプロフィール
演 者	萩原 英子(看護学部 看護学科 教授)	 スマートフォン等から開く 場合は2次元コードをタップ！
目 的	がんとともに生きる人とその家族を支えるピアサポートについて、理解を深めましょう。	
概 要	がん医療の進歩により、がんとともに生きる時代になりました。しかし、がん患者とその家族は、治療の選択や生活の調整、再発への不安など、様々な悩みやつらさを抱えながら日々を過ごしています。そのような思いに寄り添い、支えとなるのが、がん体験者によるピアサポートです。本講座では、がん患者とその家族を支援するピアサポートについて、わかりやすく解説するほか、がんピアサポーターをゲストに迎え、その体験をお話しいただきます。	

講演2B 【放射線学科】

講 座	乳癌 ― 検診・診断から治療まで ― ～放射線医療が支える早期発見と乳房温存治療～		演者のプロフィール
演 者	磯 昌宏(医療技術学部 放射線学科 講師)		 スマートフォン等から開く 場合は2次元コードをタップ！
目 的	乳癌の検診から治療までを学び、放射線医療の役割と早期発見の重要性を理解していただく。		
概 要	乳癌は日本人女性に多い癌ですが、早期発見・早期治療により高い治療効果が期待できます。本講座では、マンモグラフィや超音波検査による乳癌検診、MRI・PET/CTによる広がり診断、センチネルリンパ節生検、乳房温存療法と放射線治療の役割について分かりやすく解説し、放射線医療の重要性について紹介します。		

講演3B 【看護学科】

講 座	がん治療によるお口の変化とトラブルを予防するセルフケアのすすめ	演者のプロフィール  スマートフォン等から開く 場合は2次元コードをタップ！
演 者	伊藤 順子(看護学部 看護学科 助教・看護実践教育センター 主任)	
目 的	がん治療による口腔の変化を理解し、日ごろのセルフケアについて学びましょう。	
概 要	がん治療は口内炎、口腔乾燥、味覚変化、感染症など、さまざまな口腔トラブルを引き起こします。これらは「食べること」の喜びや生活の質に大きく影響します。本講座では、治療に伴う口腔への影響や口腔ケアの基本をわかりやすく解説するとともに、歯磨きだけではなく、お口の変化に気づき、こうした症状の予防につなげるセルフケアについてお伝えし、日頃のお口や食事に関するお困りごとの解決につながる機会となることを目指します。	

講演4B 【教養部】

講 座	がん医療における患者の意思決定と同一性		演者のプロフィール
演 者	峯村 優一(教養部長・准教授)		 スマートフォン等から開く 場合は2次元コードをタップ！
目 的	がん医療における患者の意思決定を、人の同一性と価値観の変化という哲学・倫理学の視点から捉え、よりよい意思決定のあり方を考える。		
概 要	がんの診断や治療によって、患者の身体、生活、価値観は大きく変化することがあります。それでも患者は同じ人であり続けます。本講座では、人の同一性を哲学的に考えたうえで、変化する価値観や希望を医療の選択にどのように反映させるべきかを検討します。患者の意思決定を尊重しつつ、家族や医療者が患者にとっての最善を共に考えることの重要性について、自律尊重原則と善行原則、ACPを手がかりに分かりやすく考えます。		